

(2023年6月23日付・下野新聞26面)

記事は加工しています



大平地区ぶどう集荷所で行われた今シーズン初の出荷作業

観光農園主体の大平町組合 栃木

ブドウ出荷 初の 円

【栃木】大平町ぶどう組合がJAしもつけを通して出荷する2022年度産ブドウの販売額が、前年度比15%増の1億558万円となり、過去最高となったことが22日までに、同JAのまとめで分かった。シャインマスカットの販売額が約5000万円に上り、全体を押し上げた。ぶどう団地を中心に観光農園などでの販売が多くを占める大平地区で、同JAを通したブドウの出荷額が1億円を突破したのは初めて。

(文・写真 稿本裕太)

シャインマスカット好調

同組合は約70年前に発足した。現在の生産者は57戸で、栽培面積は約53畝。大平地区で生産されるブドウは観光販売が7割、市場出荷は3割ほどとされ、同JAを通して出荷は岩舟地区に次ぐ規模だという。

「巨峰種あり」「巨峰種を含む販売額の合計は19年度8389万円、20年度8441万円、21年度9155万円だった。約10年前から栽培が始まったシャインマスカットの販売額は、21年度の427

設 問

【1】見出しに入る金額を、記事を読んで入れましょう。

【2】大平町ぶどう組合で出荷している4品種は、何でしょう。

【3】大平町ぶどう組合のブドウ販売額を表に整理しましょう。

ブドウの販売額(万円)

19年度	
20年度	
21年度	
22年度	

【4】大平町のシャインマスカットの販売額を表に整理しましょう。また、シャインマスカットの特長について、かっこの中に言葉を入れましょう。

シャインマスカットの販売額(万円)

21年度	
22年度	

「シャインマスカットの特長は、(1) 粒

で(2))が無く、(3))ごと食べられる」

【5】シャインマスカットを扱う農家の様子について、須藤組合長のお話をまとめましょう。かっこの中に言葉を入れましょう。

「シャインマスカットを扱う農家は(1))おり、栽培面積も(2))傾向にある。(3))向けなど海外での(4))も影響している」

【発展】あなたの住んでいる地域には、どのような特産物があるか調べてみましょう。

3万円から22年度は4987万円と16%増加。大粒で種が無く、皮ごと食べられるのが特長で、国内外の旺盛な需要が販売額増加につながった。

須藤組合長(68)は「シャインマスカットを扱う農家は増えており、栽培面積も拡大傾向にある。輸出向けなど海外での人気も影響しているのでは」とみる。

一方、生産者数は毎年1、2人ずつ減少。組合は離農する農家と生産者の間に入り、農地の借り受けなどの支援を行っている。須藤組合長は「生産者が減る中、栽培面積など産地としての規模を維持できるよう努めている」と話している。